

令和3年度第1回海上の森運営協議会 議事録

日時：令和3年9月24日（金）午前10時00分から正午まで

場所：あいち海上の森センター 3階 研修室

出席者：石川明博委員、浦井巧委員、大谷敏和委員、加藤守幸委員、
高野雅夫委員、田中隆文委員、森眞委員（五十音順）

1 あいさつ

あいち海上の森センター所長 日比野 友昭

2 協議事項等

（1）報告事項

ア 令和3年度海上の森保全活用事業の取組状況について

イ 海上の森自然環境保全地域維持管理事業について

（2）協議事項

ア 海上の森保全活用計画2025の進捗管理について

（3）その他

「（1）報告事項 ア、イ」について、事務局から説明

【座長】資料1について何かご意見、ご質問はありますか。よろしいですかね。詳細はまた後ほど資料3で説明いただきますので、そのときに質問等していただければ。

資料2につきまして、どこからでもご意見、ご質問いただければ。

【委員】湿地とか、やる人の主体の責任者というのは誰がやっていますか。県の職員が責任持ってしょっちゅう見て「先生、今これやったほうがいいですか」とか、そういうことをやるんですか。たぶん学生は頼まれて「今日おらんからおいで」と言われて行くと思うんですけども、自分でこう「どうなった、次どうなった」ということを気にしてやっている人と、頼まれて行く人と色々いると思うのですけれども、この調査・保全の主体は誰ですか。先生に丸投げでお任せ状態、先生の言うとおりの「わかりました、じゃあはじめます」というふうにやっているのか。どういうふうにやっているのですかね、このシステムは。

【事務局】研究室の学生さんもかなり頻繁に湿地の状況調査には来ておられて、学生さんとしても主体的に卒論だとか・・

【委員】卒論、論文がかかっとなるでね。

【事務局】こまめに来ていただいて主体的にやっていただいています。活動の主体としては、県の条例で自然環境保全地域に指定されているところの維持管理事業なので、自然環境課が主体ではありません。

【委員】担当に私をはっきり言いたいのは、「熱意があってやっているかどうか」ということですよ。事務的にやっているのかどうか。

【事務局】「保全活動をこうやっていきましょう」ということについては、○先生に聞きながらやっています。実際の作業でも○先生のところの学生さんのパワーにかなり助かっています。県の職員では人数も少ないですし、パワーも学生さんには及ばないですし。

【委員】この歳になって、やっぱり「いいものをやるには熱意が必要」ということを思って、誰が熱意を持ってやっているのかなと気になったんですけれども。別件で、シデコブシの花の実は、わたしもよく知らないんですけれども、風媒花ですか、虫媒花ですか。虫媒花だとしたら虫がどんなので、「その虫がいなくなったから」というようなデータがないもんだから。

【事務局】すいません、私そこは知識がなくてお答えできないですね。ただ、ああいう形の花が咲くからには風媒花ではないと思いますが。ご存知の方がいらっしゃったら。

【委員】虫媒花だと思います。やっぱり谷を越えないことが結構あるもんだから、谷ごとに違う遺伝子を持っているみたいなので。風だったら何とでも飛んで行ってしまうと思うんですけれども。虫媒花と聞いております。

【委員】虫媒花を、どんな虫が来るのかを調べに、私が○小学校にいたときに学生（院生）が行ったんですよ。でも1匹も見つからなかったので「どうして？」ということになって。

【委員】たぶん研究者はデータを持ってみえると思います。

【委員】どんな虫が来るんだろう。見たことがない。

【委員】ついでのよろしいですか。別紙3の屋戸湿地の保全内容のところなのですが、以前耳にしたことがあるのですが、一番左側のオレンジの部分の左側が土堰堤になっていて、今現在その堰堤の上で伐採した樹木が全部積んであるんですよ。あれがちょっと気になっているところで、せっかく富栄養化を防止したのに、あれが腐ってくれば全部湿地に入ってくるので、湿地がまた富栄養になってしまう。あれの除去をやられるようなことを耳にしたのですが、その後の計画はどうなっていますでしょうか。

【事務局】今年の5月に一度、除去作業を実施しまして、大きく倒れていた木などは細かくして山側のほうに移動させました。

【委員】山側というと、屋戸川の上流から下ってきて湿地の右側の斜面のほうですか。湿地の右側の手前のほうに一番最初に除去したミズゴケなどが積んでありますよね。

【事務局】そうですね、まだちょっとこんもりしてしまっていて。

【委員】あとさっき学生さんの話があったのですが、私は毎週木曜日にあそこを通っているのですが、学生さんのパワーはすごいですわ。1日の学生さんの数と、1日の仕事量からいくと、とんでもない土砂とか重いものを全部運び出すものですから、さすがやっぱり若い人は体力があるな、と思っています。

【座長】ありがとうございます。

【委員】別紙1のシデコブシの生育状況について。結実率というのは下にありますように「実の数÷花の数」ですが、ここに花の数を入れるとわかりやすいなと思って。結局花芽の数ではなくて花の数というのがあるので、花の数をここにに入れていただくとわかりやすいかなと思います。

【事務局】そうですね、はい。

【座長】僕も。2015年が「0」なのは何でかなと思ひまして。

【委員】単純に花芽の数で割るとこの数にはならないので、よく見ると「花の数」と書いてある。おそらく花の数になるのでは。

【事務局】これは株ごとになります。花の数というのは花芽の数じゃないかと私は思っています。

【委員】そうするとこのパーセントにならない。

【事務局】株ごとに計算した中央値なので、単純に割り算をして出た数値ではないと思います。厳密には「0」ではなく0.000・・・などかなり小さな数値であると思いますが、元データをあたってみないと正確なところはお答えできません。

【座長】ここはちょっとクリアにして、また次回ご報告いただければと思います。他にいかがでしょうか。

【委員】ここにはないんですが、以前お尋ねしたビワコエビラフジについてはどうなりましたか。

【事務局】ビワコエビラフジにつきましては、現在生育環境がかなり弱々しい感じで、「どのように保全していくべきか」というところがちょっと案が出ていない状況です。

【委員】○先生には相談されましたか。

【事務局】○先生には相談しまして、「もしかしたら、大規模にもっと探したら株が残されているところがあるかもしれないので、まずはそれを探してみるなどしないとうしようもない」とのことです。今わかっているのが数株です。以前同行いただいた調査時とは別のときに、上流から見ると左側の岸に3株ほど確認されましたが、かなり貧弱な状況ではあるので。

【委員】株数があるときにやらないと、もったいないと思います。

【事務局】そうですね。どうすればいいのか、という具体的な方策があまり出せていないような状況で

はあります。

【委員】ありがとうございました。

【座長】他にいかがでしょうか。

【委員】全く関係ないかもしれんけど、「コロナの感染拡大により中止」とありましたけど、これ野外の活動ですね、シデコブシの保全。野外ならば中止することもないんじゃないかと思うのだけれども、何か基準があるんですかね。私らはイベントやるときに「野外でやるよ」というと「中止だとかは主催者が考えてください」と言われて。県はいろんなところで中止、中止、とあるからどうなのかなと思って電話かけたら「主催者が考えてください」と。で、ここ（研修室）は20人ですね。今日欠席が2人おったから19ですけども、2人欠席しなかったら21だから「21だったら中止になるのかな」という気がするんだけど。

【事務局】そうですね、具体的な基準があって決めているわけではなくて、これは県と〇さんと相談して決めている状況です。状況をみながら、ですね。基本的には緊急事態宣言が出ているような状況下では「不要不急の活動はやめておきましょう」ということで、現状の判断だと中止ということになっています。

【委員】2020年度はそうかもしれんけど、今後のこともあって、海上の森センターで活動するときには例えば「ワクチン打ったから、証明があればいいよ」というのもあるし、「ワクチン打ったって感染しない保証はないからダメ」というのを今後も続けるのか。今は経済が低迷しているから、「ワクチン接種した人は証明書を見せればいいよ」という動きが出ているわけですよ。だから今後も、センターのある職員に言わせると「ワクチンを打っても感染はゼロではないから」という。ということは今後もずっとそれを続けていくんだったら、感染のことはすべて、20人は絶対守らなきゃいかんのか、とか、職員によってもバラつきがあるわけですね。窓開ければ、外ならばいい、とか。だから今後の活動に影響するものだからそのへんの基準をやっぱりしっかりしないと。人によってまちまちだし、だからもうみんな迷っちゃって。誰が指示出しているのかな、ということ。

【座長】そのへん、センターのほうではどうしていますか。この春の講座とかは。

【事務局】特に「何人以上は」という基準は決めていないですが、緊急事態宣言下でしたので、ソーシャルディスタンスをとって、やれるならやる、できないならできない、感染対策をとってやめるか、という状況でした。

【座長】5月の「森の自然教育コース」は対面でやれたんですよね？

【事務局】はい。

【委員】今後も、第6波が来ることがあるものだから。

【事務局】そうですね。

【座長】それはやっぱり何か基準を考えておいたほうがいいと思いますね。

【委員】「やるんだったらこう」だとか。私らのイベントは参加者に同意を得てやったら、3分の1はキャンセルがありました。そうしたらちょうどいい人数になりましたけど。

【座長】これ、どこも悩まれていると思いますけど、瀬戸市の講座とかはどうされていますか。

【委員】同じですね。状況で、屋外でも集まって接触することは変わらないので、そのところは「できるものはWEBでやってみよう」ということで、WEBで画面見ながら講座をすとかをやっていますが。ただ大人数ではなかなかできないので、できるだけ今おっしゃるように、「ある程度の距離感が保てるならできるだけやっつけていこうよ」という話になるようにしているところです。

【委員】主催する側はものすごい悩むもんね。

【委員】全くそのとおりですね。

【委員】やっていいのかどうか、バッシングがあったらどうしようとか。主催者が判断していいならやってみようとか、やってバッシングがあったら困るなとか。それだけなんですけど。

【座長】これは本当に難しい問題ですよ。

【委員】感染については「瀬戸では増えてないから大丈夫だよ」と言っていたら急に数字が上がってしまっ。「やっぱりやめたほうがいいじゃないか」ということについては、参加者のほうからも「やっていいんですか」という話になってしまっているの、そのところはその都度都度で判断するしかないのかな、と思います。

【座長】そういう経験は持ち寄って、「この場合はこうだった」というような話をする、ということですかね。

【委員】やっぱり活動が停止したら困るもんね。

【座長】全然ダメ、というのは困っちゃうので。皆さん納得できるやり方でできれば。

【委員】感染対策として我々はこういうことをやりますよ、それでもよかったら来てください、不安な方はやめてください、という方針にしたんですよ。

【座長】基本、自己責任しかないですからね。この件はちょっといろんなところでコミュニケーションとりながら何らかの基準ができるといいですね。ありがとうございます。他いかがでしょうか。じゃあ僕から、今年のギフトチョウの出現状況とかはどうなんですか。

【事務局】一度、屋戸湿地のほうで見つけたということで写真いただきましたよね。

【事務局】それが1件と、散策者の方が三角点のほうで撮影されたのが1件。なので、私どもの把握しているなかではその2件です。

【座長】それは改善に向かっているのか、どうなのですかね。状況悪くなっているのか。

【事務局】屋戸湿地のほうで見られたものは、道沿いを移動してきたような様子で、三角点のほうは写真を何枚か撮られているのでしばらくその場にいたと思われます。留まっているかどうかはわからないので、今後の様子次第かなと思います。

【座長】カンアオイの調査なんかはやられていないですか。卵の調査とか。

【事務局】現状だとカンアオイの調査は自然環境課のほうではやれていないです。ただ、ほかのシデコブシやスミレサイシンでやっているようにカンアオイの生育調査ができれば。ギフチョウは動物なので調査がなかなか難しいとは思いますが、ちょっと指標とかが見えるかなと思います。

【座長】そうですね、せっかくやれているので、何らかの結果のモニタリングも必要だと思うのですが、ギフチョウが出る期間に集中して観察するとか、カンアオイの調査をやるとか、やればできることもあると思うので、ぜひちょっと考えていただければ。

【委員】○先生が何かやられているのではなかったですかね、カンアオイの調査。

【座長】何年か前にやられましたね。

【委員】卒論やる子がいなければやらないのかな。

【委員】それを活用されてはいかがですか。

【事務局】そうですね、はい。

【座長】確か何年か前はかなり詳細な、吸蜜の花の調査なんかもやっていましたね。毎年はやられていないですね。ちょっとご検討いただければ。

【事務局】はい、ありがとうございます。

【座長】ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

シデコブシとスミレサイシンの花の数とかは年々変化が大きいので何とも言えないですけど、何とも言えないなりに少し統計解析とかをできるといいかなと。それができるくらいの年数がたまってきているので。ちょっと専門家に相談して統計解析してもらおうといいかなと。

【事務局】はい。

【座長】はい、ありがとうございました。よろしいですか、資料2については、では引き続き協議事項ということで、今年度の進捗管理について、資料3のほうの説明をお願いします。

「(2) 協議事項 ウ」について、事務局から説明

【座長】ありがとうございます。では、本年度の取組状況について、どちらからでも質問がありましたら。

【委員】私は海上の森大学卒業生なのですが、本年度の計画に活動について書かれていますけど、自分たちは何もしていないなど。アカデミーなんですけれども、人材育成で前に私は講義を受けたときに、ある講師が「カルチャーセンターになっていないか」と一言。それがずっと頭の中にあるんですよ。で、これは人数を定員を合わせると、49名、約50人。で、森税のやつで287万。それ一人あたりにすると5万くらいですよ。5万超えていますよね。5万円超えて修了して、どれだけ活動できるか。みんな勉強するのにアカデミーで大学の先生とかいろいろな人の話聞いて「いい勉強になった」でそれで終わりじゃないかと。やっぱり活動できる人材のために、講座のほかになにか話があるんじゃないかと。そういう取組をやってるかどうか。あの海上の森大学やったときもそうです。あれものすごく、10年間で約1億円くらい使ったんじゃないですかね。大学の先生、広島からきてすごい旅費かけて。で、活動しとる人が何人おるかという。確かに内容はいいんだけど、修了した後いかに活動できるのか。人材育成というのはつなげなきゃいけませんよ。で、人材育成と言いながらそれで終わり。どうしたらいいのかということをおね、やっぱり取組をそういうノウハウを知ってる人の話を聞かせると。いろんな大学でいろんな講義をじゃなしに、医者でもね、患者さんとの付き合い方とかね、医学の勉強だけじゃなくて患者さんとの付き合い方とかの講義も出てきましたので。そのへんはどう考えてるんですかね。私ら7万円の補助金をもらうのにね、去年色々言われたんですよ。

【座長】ありがとうございます。これすごく大事な点で、アカデミーを最初に立ち上げて企画する段階でかなり議論して、ここでも議論したことなんですけれども、それがどうかということがこの資料に書いてないのでそういう質問になっているのかと思いますけれども。

【委員】修了生どうするんですかね。それで終わり？修了証書でもね、東京からマリさん来てもらって修了証書ももらったけど「修了証書、なんの役にも立たんよ」と。あれなんだったのかなと。ただの儀式か。

【座長】ちょっとセンターのほうから。

【事務局】ありがとうございます。海上の森大学の経験を活かしてのアカデミーで、ちゃんと勉強した人たちが活動していくということが大事なことで、ちょっとこのまとめかたがあれだったので書いていないのですけれども、例えば「森の自然教育コース」の修了生でしたら、それぞれのグループを作って、かなりやる気のある方たちが集まっているので、こちらがまとめなくてもまとまってくれて、自分で団体を作って、自分で補助金を取ってきて、お客さんも集めている。もちろん私たちも支援しますが、さほどの支援をしなくてもいいくらいに皆さんやる気に満ち溢れている。森の自然教育コースであれば一段上に書かれている「みのむしックス」という団体を作ってもうすでに3年活動されていますし、森女養成コースですとチェーンソーを使ったり場所の確保の問題があるので私たちの支援は他よりは多くなるんですけれども、ここには「森女修了生」とちらっと書いてあるんですけれども「ヤマとナデシコ」という団体を作って、月1回伐採だとなどの作業をやっていきます。コロナで今年はなかなかできていないのですけれども、そういうことをやっています。あと森女養成コースをやるときに来てもらってお手伝いしてもらおうということをやっています。里山暮らしコースだけはなかなか難しいなどと言っていたら、この間の3月のときに少し話が出ましたけれども、〇先生のおうちのほうで素敵な場所を提供していただいてそこで作業させていただいている。本当はこのあたりでできれば一番いいのですけれども、1つのきっかけとして恵那のほうで使わせていただいているという動きもありますの

で、ちょっとここにまとまっていなかったのは申し訳なかったですけども、確実に修了生は活動しています。

【委員】保全の20年の計画のなかでも、36ページに「多様な主体の参加の促進」と書いてあるんですよ。海上の森でやるのに1つの団体、私もね、70超えてね、いつまで続くかですよ。みのむしックスでもそうですよ。やる気のある人がいつまで続くかですよ。「今やってるからいいじゃないか」というふうではなくて、やっぱり長い目で100年、1000年と〇先生から講義受けました。で、ずっと続けるためにするシステムをどうするかという、やっぱりこの多様な団体がということで今パネルでやってくれていますけれども、そういう先の先のビジョンまで考えていないと。「今修了生やっとなるじゃないか」と。でも私が抜けたらだれがやるのかな、と。補助金だれがかけるかなとか。あんなめんどくさいことやらまずみんなあのハードルで提出しないとか。みのむしックスだって同じですね。担当がいなくなったら誰がやるかなとか。やっぱりそれを受け継ぐような1つの組織があって、事務は誰が、というのがあって。別々に行動してもいいんだけど、やっぱり何かまとまりがないと、てんでばらばらで。海上の森の会は森の会で、一生懸命やってくれてる。「やれるところは一緒になって海上の森を守っていこうじゃないか」という雰囲気でないかね。お互いにやってることは知らんよ、ではここでは困るもんね。だから私らもやってることがよその団体にPRできているかどうかという。チラシ作って配りまくりました、参加するかは別にして。ということをやっていますけども。

【事務局】なのでつなぐ場にここがなればいいな、という思いで3枚目のところにある「NPOグループ活動発表ひろば」という、たかだかポスター展示なのかもしれないですけども、皆さまに見ていただいてきっかけになればよくて、ここがそういう提供ができる場所になればいいかなと個人的には思っていますけど、これをいかに続けていくかということは大事ですね。

【委員】なごや環境大学でやるときは冊子があって「どこの団体が何をやっているよ」と一目瞭然で、それがいろんなところに配られて、「あんなことやっているんだな」ということになるんだけど。交付金もらう人もね、県の人にこの前電話したんだけど、そういうことをやってくれているかと。「こういう団体がこういうことをやってるんだ」ということを宣伝してるかと。やっぱり宣伝というのはね、今コロナの時代ものすごい難しいんですよ。公民館にはチラシ置けない、じゃあどこに置いたらいいのかという。でもういろんなところ、名古屋を走り回りましたよ。で、県はやっとなるよ、交付金払ってあとはもう知らないよ、というふうでね。やっぱりNPOを育てたいのか、育てるにはどうしたらいいのか、県ができることは何か、ということをやっぱり考えていかないと、みんなで。だらか森の会も、ものすごい、私見てるんだけど、ものすごいがんばっているんだけど、なんせ高齢化でね。どこも高齢化で。同じような問題が、先がね、将来が心配なんですよ。いつまで続くか、体力的に。

【委員】今の話で、前半は「こういう講座受けたかったな」「どういうふうに参加しているか」ということでそれがちゃんとやれているかどうかという話、後半はいろんなNPOなんかが一丸となって、という2つの話があったと思うんですけども。全体の話でね、やっぱりこういう講座がいろいろありますけれど、確かに参加した人が全員活動につながってくかということそれは難しいと思うんです。

【委員】でも仕掛けはしなきゃいかんですね。

【委員】継続することが大事だと私は思うんです。私らも「海上の森フォーラム」をやっていますけれ

ど、来てくれた方がどんな形で活動されているかということまでは把握していませんけれども、やっぱりやってくるとだんだん広がっていくことは確かで、これまで参加してくれた方も延べでいうとかなりの数になって、情報発信もできるようになってきたんですが。今言われたような視点も大事ですけど、やっぱり継続することが大事だろうというふうに思いました。

【委員】はい、よろしくお願いします。

【座長】はい、ありがとうございます。なので、海上の森アカデミーについては修了生が継続して活動できるようにということが大切なことですので、ぜひ実績のところをそれなりに説明をしていただけたらと。

【委員】そうです。で我々と何が一緒になって協力できるかとかね。「全く別の団体で関係ないよ」っていうふうだから。

【座長】はい、よろしいですかね。では○委員。

【委員】センターのほうの実績の1つの例として、森女養成コースを卒業された方が、海上の森の会の森づくりグループに5名だったか3名だったか、入って来られたように思いました。

【事務局】すいません、今初めて聞きました。ちょっと知名度もつながりも悪かったですね。

【座長】では○委員。

【委員】今の話題、最初に事務局がご紹介されたことも、PDCA に書くとするとならやっぱり「チェック」のところになんか書かないといけないと思うんです。今 PDCA の「C」のところを見ると、「受講生のアンケート結果も良好であった」ということが書いてあるんですけども、これはあんまり当てにならないようなイメージがあるんですけども。受け身で受講していてもアンケート結果は良く書いてしまう場合もあるでしょうし、「せっかく参加したんだからある程度ポジティブな評価をしよう」という心理的な部分もあるんで、「有意義であった」とか評価は当然高くなってしまいうんです。なので受講生のアンケート結果どうのこうのではなくて、先ほど紹介されたような事例をこの「チェック」のところを書いておいたほうがいいのではないかと思います。

【座長】はい、ありがとうございます。ぜひそれはよろしくお願いします。では他の観点でいかがでしょうか。

【委員】資料3の2ページ目ですね、一番上に「里と森の教室」と「調査学習会」というのが書いてありまして、調査学習会が計画としては一応「年3回程度」と書いてあります。で取組実績としては1回、ということになっています。これが2回減ってしまったということと、これに関しては実施できたということ。それから改善のところでは「予算削減により事業休止」ということで、とうとうこの1回も無くなりそうということで、これはすごく残念で悲しいなと思っているところで、委員の皆様にも知っていただきたいと思いましたので発言させていただきました。

【座長】これはどういうことをやっていたのですか。

【委員】きのこの勉強会とか、あるいは植物の観察会的なこと、水生生物の観察など。そんな講座がありました。

【座長】それは講師の方に来ていただいて、1日歩いて、という感じですか。

【委員】そうですね。元々5回くらいあったように聞いていたのですが、それが3回になり、1回になり、とうとう無くなってしまったもんですから、これはちょっとすごく悲しいな、と思っているところです。

【座長】・・なにかコメントありますか。

【事務局】すいません、それについては予算の関係もありますので、今明確にここで答えられないです。まだ来年度予算もどうなるかがわからない状態ですから、また予算が決まり次第お答えできるかな、と思います。

【委員】来年度に向けて予算要求するかどうかだね。

【事務局】もちろん、そりゃあもう頑張ってやります。

【委員】今のお話も、PDCAの「チェック」のところ「計画どおり実施できた」になっていて、調査学習会も全体計画では「毎年3回程度」、取組実績で「1回」、で評価が「計画どおり実施できた」となっていますが、3回が1回になって計画どおり実施できたのか、と思う。PDCAの中で一番重要なのがC「チェック」のところだと思います。「計画どおり実施できた」という文字だけが並んでいるのはチェック欄としてはもったいないと思うんですね。やっぱり「具体的に何ができたのか」とか、そういうことをこのチェック欄のところに書いておいたほうが次につながる話に行くと思いますので、できれば「計画どおり実施できた」の1行で済ませることはなるべく避けていただいて、ちゃんと書いていただいたほうがいいのかと思いました。

【座長】何かやれば、その実績・成果から課題が見えてくると思うので、その両方を書いていただくといいのかなと思います。よろしくお願いします。

調査学習会の件で、ちょっと僕の意見ですけれど、森に来られたことがない方が初めて来る入口になるような、そういうきっかけがやっぱりたくさん必要なのかなと。特にコロナになって子供が家に閉じこもっていきやいけないという中で「じゃあ休みには海上の森へ行ってみようか」と初めて来られる方もおられると思うし、むしろそういう方にたくさん来ていただくのが森の意義じゃないかなと思うので。そういうときに、ただ来てもどこを歩いていいかわからないし、何見ているかわからないので、何かそういう入口になるような機会をできるだけたくさん作っていただくといいのかなと思うんですね。そういう意味では、調査学習会もその1つだったと思うんですね。それが無くなったというのはかなりダメージが大きいんじゃないかなというふうに思いますので、ぜひ来年度は何らかの形で入口になるようなものをセンター主催行事として復活していただきたいと思うし、海上の森の会さんとかいろんな新しい活動団体の方々とか連携して、その方たちにやっていただくのをサポートするという形でも、いろんなやり方があると思うので、ぜひ考えていただければありがたいと思います。

他はよろしいですか。

【委員】資料の3ページですか。3と書いてある。小中学校に関しては「学校カリキュラムの関係で、学校からの自発的な取組以外は難しい」と、「相談には積極的に対処する」と。学校というのはカリキュラムがあって、教育課程があって、それに書いてあること以外の時間はないですね。もう決められたカリキュラムをこなすだけでも精一杯。他のプラスアルファのことをやろうと思っても時間がない。ということで私、だからこの資料を作りました。

【座長】この、お配りいただいた資料ですね。

【委員】はい。小学校1年生から高校までの教科書全部借りてきて、全部コピーして。やっぱり売り込むためには「学校でどのようなことをやっているのか」ということをやっぱり調べないと。調べずに、相手を知らずに売り込んだって、こちらの言いたいことと違うもんだから。学校のねらいが全然違うんですよ。我々が伝えたいことと学校が伝えたいことは全く違う、と。それを知らずにやったって意味ないな、と。で、これ「里山を守ろう」って書いてあるけど、これ道徳の教科書です。小学校3年生のです。私もあれだけど、こんなの読む先生ほとんどいません。たぶん読めないです。あのこれがわかる先生が何人おるか。里山に関係する先生が。その先生ができないのに、教科書にはあるんです。でQRコードもらって。ビデオも作ってるんです。で、小学校3年生の理科の教科書で「観察の仕方」というのがあるんです。あの「観察の仕方」をできる先生が何人おるか。私が現場におったときはほとんどできない。ただ外に連れて昆虫採集で放して虫捕まえてきて「あ〜いっぱい採ったねえ」って。それで教科書の「昆虫 からだのつくり」というのをやるわけです。それが現実だもんだから、内容を本当にできるかどうか、「これをこういうふうに教えますよ」という観点で売り込まないと。それから最後のこの「SDGs」のね、小学校6年生の理科の教科書です。理科の教科書でこんなことをやっておるんです。これは190ページですから、卒業式間近です。卒業式間近でこんなことを考えてる・議論する時間なんて全くありません。だからたぶんここは読まずに終わりでしょう。それが現実です。これも、これも、これも、いいことばっか書いてあるけど。で、環境課の人にも言ったけど、「自然読本」というのが環境課で発行されているんです。各学級のクラスに人数分だけ配られているけど、まず利用してない。要するにあれ税金のムダ遣いだと思ってる、作って終わり。で、これも文科省の教科書会社の自己満足で。で道徳の教科書も。やっぱりこれをよく学んで売り込まないと。だからそういう関係の書類も図書館においてほしい。で、私もはじめ図書館行ったら、図書館って意外といろんな人が借りております。だからやっぱりそういう資料も、専門的な虫の勉強じゃなしに、知識じゃなしに、やっぱり教育のための自然とのかかわり。それもやっぱり勉強していかないといけないなと、私これ書いている前にこれがあつたもんだから、気になって仕方がなかったです。「え〜、どうやって売り込むか」って、攻め方をやっぱり研究しないと。「ダメだったから」ではなしに、やっぱり勉強していかないと。で、SDGs、講座でSDGsが読める子はほとんどいませんでした。はい。「読める子は読んでね」って、小学校1年生には「エスディージーズというんだよ、それだけ覚えてね」って言って終わりましたけど。はい。

【座長】はい、素晴らしい資料を作っていただいて。道徳の教科書にこういうのが載っているのは初めて知りました。ありがとうございます。何かセンターのほうからコメントがあれば。

【事務局】ありがとうございます。色々検討させていただきます。

【委員】やっぱり、どんなことをやってるかね、相手を知ってから攻めないと。

【事務局】そうですね。すいません、ありがとうございました。

【座長】ありがとうございます。ぜひこれ有効活用していただいて。
他にいかがでしょうか。

【委員】1ページ目のところに「森林モニタリング調査の委託」と書いてありますよね。これはどんな調査をやるのでしょうか。

【事務局】例年ですと調査区域を何か所か設定して、そのうえで林況なり植生なりを調査して、照度調査ですとかを行ったりするんですけど、それで「どういったふうに森が変遷しているのか」というのをみて維持管理につなげていく、というのが目的になっているんですけど、前回の数年前に実施したときと比べて本年度は予算が約3分の1になってしまっているの、内容としてはかなり減ってしまうのが正直なところです。

【座長】で、その内容は。

【事務局】本年度の内容としては、林分構造調査と林床植生調査を主体として、箇所数としては1か所
でしかやれない予算となってしまうので、それでやるのが手一杯になってしまっているのが正直
なところです。

【委員】どこを対象にしているのですか。場所は。

【事務局】通常ですと森の中で何か所か設定してやるんですけど、今年は1か所が精いっぱいですの
で、場所としては吉田川沿いの道から少し上がったところの、尾根沿いになるんですけど、そこが調
査区域になっていまして、そこで実施することを予定しております。

【委員】人工林？

【事務局】人工林ではないです。

【委員】人工林ではなくて広葉樹林？

【事務局】そうですね。

【委員】前もそういう調査をやったんですね。

【事務局】そうですね。保全活用計画でそのように計画してやっていました。

【委員】面積はどのくらいですか。

【事務局】面積は50m×50mの区域です。

【委員】それは継続してやるつもりですか。その調査した結果のデータはどのように活用するつもりで
すか。

【事務局】今のところは、データの蓄積になってしまっているような状況です。

【委員】またじゃあ調査結果を来年教えてください。

【事務局】そうですね、はい。

【座長】研究者のほうでも色んな調査をやっていますよね。木は生長していつているので、どういうふうに生長していつて、植生がどう変わっていつているのか、というような情報は結構あると思います。そういうのを加味して、このモニタリング調査の結果を加味して、少し考察をしていただけるといいかなと思います。基本は常緑樹に、極相に向かって遷移していると思うのですが、ただその遷移も一樣ではなくて、場所場所で違うと思うし、どういう条件だったらどう、遷移が止まっているとかね、ここだけが進んでいるとかね、そんなことがわかると森林管理にとって有用かなと思いますので。それは結局このまま放っておいて「常緑樹の森にしていく」ということなのか、それともどこかで伐って落葉樹の森を維持するという話なのか、という話につながるわけですね。保全活用計画の中でこの問題点を取り上げられていたと思うのですが、どうするのかはまだはっきりわかっていない、という中で、ある意味で先送りしていると思うので、それについてはしっかり考察をして、この場でお話していただけるといいかなと思います。小規模の皆伐というのも管理としてやるべきだという声も前からあると思いますので、そういうのを考えるときのベースになる資料・調査だと思いますので、ぜひ考察のほうをしっかりとっていただけると。相談していただけるといいかなと思います。ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

【委員】遊歩道沿いと林道沿いの草刈に関する事で。私が足繫く通うようになって8年くらい経つのですが、海上の森に数か所しかない、あるいは絶滅危惧種に指定されている植物が草刈によってなくなってしまうということが度々経験として感じました。最近起きたことは、環境省の絶滅危惧Ⅱ類に確かな位置付けられているオオヒキヨモギというのが刈られてしまって無くなってしまった、ということが起きています。実施はたぶん瀬戸市の委託業者さんによるところかなと思うのですが、以前はセンターから「近々草刈を行います」というお知らせがなかったのですが、ここ数年は本当にたくさん相談を寄せていただいて、「近々草刈をやるんですがどういったところに気を付ければいいですか」という相談を受けることが増えて、すごくありがたいなと思っているところです。ただ、相談した結果が業者さんの一番下まで伝わらないものですから、結局は今回のようなことが起きてしまうというのがあるんです。今は万博が終わってからずいぶん時間がたって、植物観察や自然観察をする人が増えたような気がして、普段海上の森で調査をしていますが、植物を一生懸命見ていらっしゃる人とか、あるいはいろんな団体が来てそういう観察をやってみえるのをすごくよく見るものですから、そういった方たちもずいぶん悲しい思いをしているのかなと。これなんとかできないのかなと思っているところなのですが、ぜひご意見をいただきたいと思っていますところなんです。

【座長】これはまさに運営協議会で解決しなきゃいけない問題ですね。どうですか、現状はどんな感じで草刈を。注意情報というのは伝わっているのか伝わっていないのか。

【事務局】草刈は業者に発注している部分と職員がやっている部分があると思うのですが、今委員が言われたように、事前に注意する箇所をうかがってテープを貼ってもらなりしてもらって、職員にはもちろん、業者さんにも現場代理人の方には伝えているんですけど、そこから実際作業する人に伝わっていない部分があるかもしれないので、そこは今後さらに徹底して強く言うしかないかなと思います。

【委員】 実際注意する場所に印はちよくちよく打っているものですから、「ここをいくらなんでも草刈することはあり得ないだろう」と思っているもやってしまうものですから。草刈の一番の理由というのは、例えば車の通行の邪魔になるだとか、散策者の安全のためだとか、その両方をふまえて草刈をされることは当然かと思うのですが、高さが20～30cmですので、車が通るにも人が通るにもはるか奥のほうの崖のほうまで全部削っていつってしまうので、そういうところにあるものはみんな飛んで行ってしまいます。たぶん契約としては「何mでいくら」みたいな契約なので、何とかしてやらなければならないので結果としてはやられてしまうのだらうと思うのですが、これが結構多々起きるものですから、それが少しでも減る状況に持っていかないと、というのをずっと思っているところです。

もう1点、海上の森の駐車場なのですが、駐車場もよく草刈をやられるのですが、一般の公園であれば刈られて綺麗にされるのもいいと思うのですが、ここは海上の森なので、やっぱり生物多様性とか、あるいは緑豊かとか自然豊かとか、そんなたくさんの謳い文句があるものですから、海上の森の駐車場もそんなに構わなくてもいいというか構わないでほしいというか。結構その中にもすごい植物があるものですから、ごくわずかな例ですけれど、ご夫婦と植物に詳しい方が「あ、この駐車場にはこんなものがあるのですか。初めて見ました。」という声がありましたし、毎週木曜日の調査の結果をセンターに貼っていただいているのですが、それを見てこの駐車場の周りを見ながら歩く、というご夫婦もいました。そんなふうにも見ておられるものですから、あまり背丈が高くないものは放っておいてもらいたいと思うのですが。以上です。

【座長】 すごい大事な観点だと思うのですけれど、「草刈ってなんのためにやるか」ということに関わるんですよ。見た目というか景観のためにやる、というのももちろんあるんですけど、もう1つは生物多様性を高めるためにやる草刈があって、高く生長するのは抑圧して背の低い植物は人為的な選択をかけるという。そういう生物多様性を高めるための草刈というのがあって、こういう場所でやるのはやっぱり少し専門的な高度な草刈っていうこともやっていただきたいですね。なので、草刈を「何のためにどうやるか」というのを少し研究していただいて、逆に言うとそういうことができる業者に。ある程度専門性のあるような業者に頼むようなことも必要ではないかと。「公園の草刈とは違う」というのは、確かにそのとおりだと思います。

【委員】 高いんじゃないですか。ぐっと値段が倍になったり。

【座長】 その点はぜひご検討いただければ。

【事務局】 はい。

【委員】 入口駐車場を使わせてもらったときに、11日に、切り株がね、雑でこんなにあるんですよ。で、やっぱりあそこへ夕方来る子供というのは、環境が違くとハイになるんですよ。走り回る。で、マムシが出るかもしれん、クモの巣を見るのに近寄ろうとするにも草ボーボーだから、そこだけ草刈やりに行きました。あそこだけ、黙って。そこだけ。それで、つまづいたらいかん、マムシが出たらいかん、で見るところだけ確保するために草刈をやりましたけど。やっぱり駐車場は車を停めるところだけじゃなしに、イベントやるときに遠くに行く時間がないもんだから、やっぱりこのセンターを利用して、観察場所にできるような、そういう環境を作ってほしいなと思っております。やっぱり時間が2時間か3時間しかないのに、たとえばここで講義1時間やって、ちょっと外行ったらもうすぐ「時間だ」と。やっぱりすぐ近くがいい。幼児森林体験フィールドなんかは非常にいい場所ですよ。ああいう場所をい

っぱい作ってほしいなど。入口駐車場もそうですね、クズがいっぱい多くなってるもんだから、簡単に見つからないんですよ、鳴く虫「カンタン」っていうのが。マツムシもそうです、上のほうで鳴いているもんだから。昔は小さいときは目の前で鳴いているのが見れて捕まえたけど、もう大きくなっちゃって、もう全然。鳴き声だけ聞こえて。「あれ刈ったろうかしらん」と思ったけれど。刈ってやると言われるからやめましたけど。

【座長】はい、じゃあ草刈は精力的に考えていきましょう。他にいかがでしょうか。
少し海上の森の会さんの今年の実施状況などを紹介していただくといいのかなと思いますけれど。里と森の教室はいかがですか。

【委員】去年は開始が遅れたのですが、今年は計画どおりに開始されまして、今順調に進んでいるところなのですが、昨年起きた問題ではないのですが、ここ最近の天候不順で稲の生育がすごく悪くて、計画している時期に里と森の教室の参加者にいつも刈っていただくのですが、それが教室の日にできなくなってしましまして。別の日を設定して稲刈りをするということになりました。2週間ほど遅れました。その日ももちろん里と森の教室の皆さんに連絡して「参加できる方は参加してください」ということで、せっかくの教室の体験ができなくなってしまいそうというのは残念でした。

【座長】参加者は何人くらいですか。

【委員】40人くらいみえました。

【座長】例年どおりくらいで。

【委員】そうですね、これはすごく人気があって、毎年かなり抽選で絞っています。

【座長】そうなんですか。

【委員】人気がある講座ですね。今年は、回数は予算の削減の関係もあって減ってきてはいるんですけど、半日にしてみたり、皆さんにご案内して「自主活動」ということで出ていただいたりしています。

【座長】はい、ありがとうございます。

【委員】あと先ほどのですね、ここに書いていただくといいかなということなのですが、体験学習の実施ということで、会のほうで4月から12月まで「自然ウォッチング」というものを月1回やっておるのですが、それも海上の森センターが発行していらっしゃるパンフレットを見て新しく参加をされた方もいらっしゃるものですから、ぜひ協働関係にあるものですから、それもここに書いていただいてもいいかなと思うのですが。そういったこともあって、コロナの関係で海上の森は最近すごく人が増えたなという印象ですが、そういった初めて参加される方もパラパラいらっしゃるの、海上の森は皆さんに愛される場所にどんどんなっているな、という実感をしているところです。

【座長】はい、ありがとうございます。

海上の森アカデミーの「森の自然教育コース」の定員が10人だった、ということなのですが、申込は何人ありましたか。

【事務局】すみません、実はこれ間違いでして、本当は8名来る予定だったのですが1人が丸々休まれてしまったので、実際修了した人は7名でして、7名のうち5名は、昨年中止になってしまい参加できなかった人たちに声をかけたところ、全員が「出たい」とのことでした。今年実質応募してきた方は3名で1人が丸々休まれてしまったので2名でした。

【座長】5名っていうのは、去年の？

【事務局】去年応募されて受講する予定だったのですが、コース自体がなくなってしまったのでそのまま順送りした、という。

【委員】7名のうちの5名？別途？

【座長】7+5？

【事務局】7の中の5です。今年新規で応募された方は3名でした。

【座長】ちょっと少なかったんですね。

【事務局】そうですね、問合せはすごくあったのですが、皆さんコロナのことをすごく気にされていて、今までにないような形でした。

【座長】そういうことですね、やっぱり申込が少なかったんですね。

【事務局】そうですね。

【座長】森女はどうですか。

【事務局】森女はものすごい数で、今までで最高倍率でした。ありがたいお話です。

【座長】そうなんですか。30人超えたとかですか。

【事務局】30人はとっくに超えました。

【座長】そりゃすごいですね。

【事務局】ただ今回はちょっと急な日程変更になってしまったものですから、本当でしたらもう受講生を決めていて来週には1回目を実施する予定だったのですが、11月の真ん中に第1回目を延期して、まだ受講生は決まっていません。

【座長】じゃあこれはこれから決まるということで。ありがとうございます。

【委員】こんな言い方していいかわかりませんが、森女ですね、「講師の方のための団体の会員集めにはなっていないか」という、そういう意見が出たんですね。森女の講師の人っていうのは、ある団体があるわけですよ。持ってるわけね、自分の。具体的に〇さんじゃないですか。

【事務局】〇さんは講師補助なのでメイン講師ではないですし、もちろん行く人もいますけれど、メイ

ン講師は別の方です。

【委員】前にそういう意見を聞いたことがあるもんだから。あの○さんの団体のための講師になって、自分の団体に引き込むと。そうすると、その団体のための会員集めになったらいかんなど。「修了したらおいで」って言って、会員の一人になるということになると、県が補助金を出して養成して、修了生が講師の団体に行く。だから「何のための講座だ」ということになるんだね。そういう話をいっぱい聞くもんだから、「今後どこで活動するか」ということになるね、講師の自分の都合のいい活動をさせるためにやってる、っていうことになっちゃいかんね、ということで。

【座長】そういった事例はありますか。

【事務局】私はないと思います。森女の修了生も今のところはステップアップとして「ヤマとナデシコ」に入ってやっていますので、知る限りではありません。

【座長】ちょっとこの見方は偏ってるというか実態を見ていないんじゃないかなと思いますけれどね。

【委員】自然保護のね、愛知県がやった愛知県自然観察指導員養成講座も、ずっと愛知県が主催してたんですよ。で、ある時からそういう声が県民から聞こえて、「一切手を切る」ということで、切られました。愛知県が主催で観察指導員養成講座というのを毎年やってたんですよ。だけどその修了生はNacs-Jの会員じゃないと入れない、ということになると、「Nacs-Jの会員のための養成講座じゃないか」という声があって、そういう講座は取りやめになったんですよ。だから講師を誰にするかということもね、非常に大事な。その後どこでどう活動しているか、ということになるとね。

【座長】ではそれは気を付ける、ということで。現状は大丈夫だと僕も思いますけど。

【委員】センターの運営は今後県に行くのか行かないのか、そんな話はどうなりましたか。このまま県の職員がずっと続くのか、将来的に。しばらくは続くのか。指定管理者に行く、とかっていう話が前に出ましたよね。

【座長】以前そういう話が出ていたのがここ2年間くらい出ていないのでどうなったか、というご質問だと思うのですが、どうですか所長さん。

【事務局】今のところ聞いていないです、としか言いようがないですね。

【委員】どっちに転がってもこの海上の森がうまく回るようなシステムを作っていないといかんなど。県が急に撤退して「指定管理にお任せ」ってなっても、どっちに転がってもいいように、そういうシステムを作ってほしいなど。

【事務局】わかりました。

【座長】はい、ではその点はちょっと注意してやってもらうということで。じゃあ○委員の資料の説明をお願いします。

【委員】ではお手元のチラシをご覧ください。第5回の海上の森フォーラムですけど、11月6日にま

た開催させていただきます。今回は、昨年募集しました「海上の森の研究報告」ということで、名古屋大学の2人の方から応募があつて、こういった内容の研究の成果を発表させていただきます。第2部の特別公演は、国立環境研究所の主任研究員の〇さんに「生物多様性を脅かす外来生物ーリスク評価と対策ー」ということでご講演をいただく予定となっております。ぜひ、コロナの関係もごございますけれども、昨年も開催しましたけれどなんとか開催できましたので、「消毒、マスクをきちんとして間隔をとって着席してください」ということで、オンラインでも同時に開催したのですが、今年もオンラインでも実施しますので、会場に来れる方は来ていただいて、来れない方はオンラインでご覧いただければと思います。よろしくお願いします。

【委員】 オンライン知らない人いっぱいおるけどね。「Zoom?なにそれ」っていう人もね。

【座長】 はい、ありがとうございます。うちの学生も発表させていただきました。

J委員、何か全体をとおしてコメントがありましたら。

【委員】 特にないんですけど、猛禽類の自主調査をされていると思いますが、今年たとえばフクロウとか、ハクマとか、もし何か報告できるようなことがあったら。

【事務局】 猛禽類ですと、今のところは例年どおりの観察状況かなといったところではあります。オオタカですとか、ハクマなどが観察されているというところではあります。特別何か、といったことは今のところはないです。

【委員】 繁殖状況等も、特にないのですか。

【事務局】 今年みられたので言いますと、ハクマのディスプレイ飛翔のようなものは見られたのですが、今のところはその程度です。

【委員】 はい、ありがとうございます。

【座長】 じゃあまたこれは逐次ご報告いただく、ということで。あと何かありますか。よろしいですか。では私のほうはこれで終わりたいと思いますので事務局のほうにお返しします。ありがとうございます。

【事務局】 はい、それでは座長、委員の皆様、ありがとうございました。以上をもちまして運営協議会を終了したいと思います。なお次回の運営協議会は来年の3月ごろを予定しておりますので、お願いします。ありがとうございました。